

■ 5月25日、通常総会に出席しましょう

第13回通常総会を開催いたします。ご多用とは存じますが、お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。会員の皆様に多義にわたる協会活動を知っていただく良い機会です。是非ともご出席ください。

当日は総会に引き続き、記念講演、交流会を行います。スキルアップ、交流の拡大のためにも、是非、ご参加されたら如何でしょうか。

郵送いたしました用紙に総会の出欠、記念講演、交流会の出欠をご記入の上、事務局までFAXにてお知らせください。正会員の方で、ご都合により欠席される場合は必ず「委任状」をFAXにてお送りください。

(ご案内及び出欠票・委任状はホームページ“JIPAT NEWS”からダウンロード出来ます。ご利用ください) 当日のスケジュールは以下の通りです。

□日時：平成19年5月25日(金)
16時30分～20時45分
(受付開始：16時00分)

□場所：全国町村会館 A・Bホール
千代田区永田町1-11-35
(TEL:03-3561-0471)



2006年総会後の記念講演の様様

■総会：16時30分～17時50分

■記念講演：18時10分～19時10分
講演者：内原智史氏 (ライティングデザイナー)
テーマ：「LIGHT ON light off」

■交流会：19時20分～20時50

■会費：6,000円
講演・交流会費として(当日受け付けにてお支払いください)

《 内原智史(うちはらさとし)氏略歴 》

日本を代表するライティングデザイナー。
1958年京都府生まれ/
1982年多摩美術大学デザイン科卒業/
1982年石井幹子デザイン事務所入社/
1993年内原智史デザイン事務所開設。内原智史デザイン事務所・所長。http://www.uclid.co.jp/

六本木のクリスマスイルミネーション、表参道ヒルズ、羽田空港ターミナルの照明、金閣寺、銀閣寺、平等院鳳凰堂のライトアップなどを手がけ、『光の魔術師』と呼ばれる。

建物を照らす本質を照らす事を信念とし、建物だけでなく周囲の街を自らの足で入念にリサーチし照明方法を定める。



■ 町名由来板

5月5日の端午の節句は御上が決めた5節句の一つで、1月7日の人日(ジンジツ) 3月3日の上巳(ジョウミ)そして5月5日の端午、7月7日の七夕、9月9日の重陽(チョウヨウ)がこれにあたります。それぞれのことはまたの機会に譲りますが、端午とは、始めの牛(ウシ)の日からとったようです。この日菖蒲湯に入る習慣がありますが、菖蒲は薬草として重宝されていて、煎じて飲むと胃薬や痛風、解熱、虫下しなどに効果があり、揉んで局部に貼るとねんざや創傷にも効くようです。古くは稲を植え付ける時、菖蒲を屋根に覆い、女性は家にとじこもり身を清めたそうで、そこから早乙女と呼ばれるようになった。また、武家社会では尚武(武を尚ぶ)に通じることから軒下に吊るし、魔よけにしたようです。鯉登りを立てるのも「鯉が竜門の滝を登ると竜となって天をかける」の故事からきていて、登竜門という男児の成長と出世を願うことから、江戸時代男児が生まれると玄関先に馬印や幟を立てて祝う習慣があり、それが庶民によって鯉のぼりに変化したようです。男児が生まれると江戸は柏餅で、関西は粽(チマキ)で祝ったことから、この日にいただくようになりました。柏の葉は新芽が出るまで葉が落ちないことから母子共に健康であれとの意味合いがあったようです。現日本橋室町3丁目に十軒店があり、古くから、ここには雛人形を売る店があり、3月の雛の節句と5月の端午の節句の2回、2月下旬から3月3日まで、4月下旬から5月5日まで人形の市が立ち、大群集の雑踏で大いに賑わったことで有名です。室町3丁目は昭和7年9月の改正で、本町2丁目の北半と3丁目の西一部、十軒店町、金吹町の東半、本石町2丁目の南半、同3丁目の西一部を合併して出来た町で、室町2丁目と同様、

三井系列の大会社の建物が占めているような町(現三越本店、三井銀行から新日本橋駅方面)でした。当時の日本橋は、橋の北東には魚河岸の市場があり、橋南の通り町筋の繁昌と共に、活況を呈していました。こうしたところには、勢い旦那衆たちの社交場、或いは商談の場、寄り合いなどの宴席に連なる女性達が必要だったので、日本橋芸者とよばれる女性がいる花柳界が育っていったのです。それは、1カ所にまとまっではなく、日本橋の南北の町の裏通りに点在した形で発展しました。今の通り2丁目・3丁目、江戸橋2丁目・3丁目あたりまでを含んだ場所だったようで、一石橋(現在高速呉服橋入り口・出口)のあたりから上槇町の方まであって、盛大だったといえます。このあたりを舞台にした泉鏡花の『日本橋』が有名です。寛政の松平定信の時代、各藩留守居役たちの会合や魚河岸の人々の会合にも好都合ということから願い出て、やがて公許された花街だといわれ、文化文政から天保にかけて、大いに繁栄しました。維新後は一時おとろえたといいますが、明治18年の『東京流行細見記』には、新橋、柳橋、芳町につき東京で第4位の89人という芸妓がいたそうです。



日本橋から見た震災前の魚河岸(左側)と日本橋側の様子、奥は江戸橋

■ 知って知らない道具たち

バンコ屋とは

昨年秋に全日本椅子張同業者組合連合会設立50年記念式典が山口県であった。明治40年頃に東京芝に椅子睦会と言う組合はあったようですが、日本全国での組織だとまだ50年しか経っていない。洋家具の歴史としては、文久3年(1863年)の頃、横浜本牧近くで、馬具一切と客用馬車の内装と椅子を手がけていた「馬具安」本名原安造がイギリス人ゴールマンから本格的な革張り椅子の作り方を伝授されたことが始まりだと云われています。その後有能な職人によって、本物の欧米家具に引けをとらない洋家具が作られるようになり、横浜に居留する外国人に愛用されるようになります。そして母国に引き上げる際持ち帰るほど出来は見事だったようで、その時代の広告には「Art Furniture」と書かれているところからも伺い知ることができます。その後デザイナーであり家具職人であった富沢一五郎など

により横浜家具の基本が築かれています。此の時代の背景は生麦事件、江戸から京都に向かう途中であった薩摩藩主の父、島津久光の行列が生麦村に差し掛かった折り、前方を横浜在住のイギリス人4人が乗馬のまま横切った。これに怒った一部藩士が斬りかかり、リチャードソン1人が死亡、この事件でイギリスは薩摩藩に関係者の処罰と賠償を要求するが、薩摩藩は拒否し、結果として薩英戦争が勃発する。またイギリスにおいてはモリス商会が誕生しています。5年後の1868年は明治維新である。此の時代、椅子を作る職人をバンコ屋と呼んでいたようで、バンコとはどうゆう意味か横浜ダニエルさんで確認しましたら椅子張り屋を職として、馬具職人の仕事を意味すると教えて頂いた。全日本椅子張同業者組合連合会の冊子にポルトガル語で安楽椅子を「Banco」言うとのあるので、ここが出所だと想像できます。

■ 途中下車 ニチベイ商品発表会のご案内

日頃よりニチベイ商品に格別のご愛顧、お引き立てをいただき厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では恒例となりました、商品発表会、「Nichibei NEO Festa 2007: ネオフェスタ」を有楽町・新宿の2箇所で開催させていただきます。

2007年新発売商品を中心にウインドトリートメント、間仕切り、ホーム・ビルユースの商品のご紹介・提案を企画しております。さらに、日頃のご愛顧に感謝を込めて、素敵なプレゼントが当たる抽選会もご用意しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

有楽町会場

- 日 時 / 6月7日(木) 13:00~18:00
6月8日(金) 9:00~17:00
- 場 所 / 千代田区有楽町2-10-1
- TEL / 03-3212-2931

新宿会場

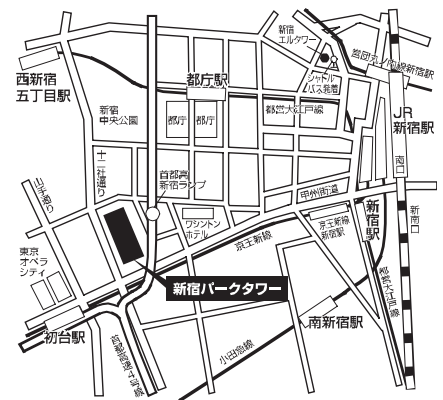
- 日 時 / 6月21日(木) 13:00~18:00
6月22日(金) 9:00~17:00
- 場 所 / 新宿区西新宿3-7-1
- TEL / 03-5322-6636

ご案内・お問い合わせ先：ニチベイ西東京営業所 TEL (03) 5367-2810
ニチベイ新宿営業所 TEL (03) 5367-9521

■有楽町会場 東京交通会館 12F カトリアサロンA



■新宿会場 新宿パークタワー3F パークタワーホール



■ 入退会者

入会 法人会員：(株)DHJ

退会 正 会 員：田原雅巳、三井所清典、坂倉英明、鈴木葉子、佐藤弥栄
法人会員：(株)ユーロデザイン、住商インターナショナル(株)、ハーマンミラー・ジャパン、(有)幸昭

■ 編集後記

馬具安こと、原安造の事を調べたく横浜美術館に出かけたが、資料を見つけることができず、イギリス人ゴールマンで探したが140年前の資料はなかなか難しい。当時の写真はかなりの枚数があり、人力車は見つけたが、客馬車では見つけられなかった。

情報委員 編集長 井上